

## 高齢者の色彩と図柄の好み(9)-地域別特性の傾向-

○田岡洋子\*伊藤紀之\*\*橋本香子\*<sup>3</sup>小菅啓子\*<sup>4</sup>吉田千恵子\*<sup>5</sup>佐々木由美子\*<sup>5</sup>小沢直子\*\*  
 (\*京都短大\*\*共立女大\*<sup>3</sup>夙川学院短大\*<sup>4</sup>元山梨県立女短大\*<sup>5</sup>昭和学院短大)

目的 高齢者が好む図柄について黑白図柄から色彩要素を加えた時、地域別にどのように変化するかを検討し、その図柄のイメージや形態も検討する。

方法 第7報と同様手続きで、図柄の好みの順位変化や傾向について、東北・北海道、関東甲信越、東京、関西（以後東北、関東、東京、関西とする）の4地域別特性傾向を明らかにし、第2報3報の結果図に色彩要素を加えた時の好みの傾向をクロス集計をして求める。

結果 25の黑白図柄の嗜好順位と色彩要素を加えた時、上位の青海波S、木の葉Pは変化なく、色が加わると円を重ねた幾何学文Nが7位から3位に、線状の渦巻Wは14位から8位へ、千鳥格子J、鮫小紋O、三角形を重ねた幾何学文Vも順位が上がり、縞柄Hは3位から7位へ下降するなど色彩の影響が見られる。全地域ともS、P柄は上位嗜好で、上位10図柄についてはほぼ共通している。赤は関東・東京はほぼ同じ傾向だが、東北の水玉Dが他の地域に比べ極端に低い。黄は東京の十字文L、東北のH柄が低く、緑は東北が他地域とは異り、青は東京のV柄が低く、紫は東北のH柄が低い。嗜好順位10図柄を和・洋柄など3種に分け、洋柄が26%、和柄21%、他17%の嗜好傾向である。東京は赤・青とも和・洋柄に、黄・緑には洋柄、紫に和柄嗜好が高く、関東は緑の和柄、東北はその他の柄に嗜好が高い。関西は紫の洋柄に高い嗜好である。イメージマップWARM-COOL HARD-SOFT上に色彩要素を加えた全体嗜好としてSOFT-WARMが約40%、SOFT-COOLは17%のSOFTイメージが好まれる傾向にある。形態分析では大柄で幾何学的な図柄が好まれ、大柄でも不定型図柄は好まれない傾向にある。